

デマンドタクシー事業の町外への
乗り入れ運行についての提言書

令和5年3月

柴田町議会

1. 町内におけるデマンドタクシーの経過と現状

柴田町の公共交通機関は、JR 東北本線や阿武隈急行線が通っており、仙台市等への通勤や通学のための公共交通機関は確保されているが、町内にはバス路線がなく、町内での移動は基本的には、自家用車等に頼らざるを得ない現状にある。

人口面に目を向けると、町の人口は緩やかながら減少する一方で、高齢者の数は増加傾向にあり、高齢者等の交通弱者を中心とした公共施設の利用、病院の通院及び商店への買い物などに不便をきたしている状況にあった。

そこで、町では「誰もが自由に行動できるよう公共交通の充実を図る」ため、平成 23 年 11 月に柴田町地域公共交通活性化協議会を設置。その後、平成 24 年 8 月、事業運営主体を柴田町商工会、運行事業者を町内タクシー事業者 3 社（現在は 2 社）として、町が商工会に補助をする形態で、デマンド型乗合タクシー「はなみちゃん GO」（以下「はなみちゃん GO」）の運行を開始した。

なお、令和 4 年 8 月で運行開始から 10 年を迎え、直近の「はなみちゃん GO」の登録者数は 3,415 人（令和 4 年 12 月 28 日）、延べ利用者数は 15,235 人（令和 3 年度中）であり、利用者からは概ね好評の声が聴かれる。

しかし、運行当初から町が出資・負担し運営している、みやぎ県南中核病院（以下「中核病院」）などの町外乗り入れへの要望が出ており、町としても運行上での各種法律や町内外のタクシー事業者間の調整を含め、懸案事項とし長年にわたり、調査・検討している。

2. 委員会としての調査・検討経過

上記のことを踏まえ、令和 3 年から令和 4 年任期の総務常任委員会としては、2 年の重点調査事項として「地域公共交通事業」を掲げ、議会（議員）として、デマンドタクシーの町外乗り入れを主にして調査・検討した。

2 年間で調査・検討した内容は次の通り。

○令和 3 年 6 月 17 日（木）所管事務調査を実施

「はなみちゃん GO の現状について」を調査項目に、まちづくり政策課より現状及び課題等を聴いたほか、事業運営主体である柴田町商工会に出向き実情を聴き、あわせて、デマンドタクシー予約センターに出向き現状を確認。

○令和 3 年 11 月 15 日（月）総務常任委員会を開催

「地域公共交通事業」における、「はなみちゃん GO」を中心に委員間でそれぞれ

れが考える改善点や施策についての委員間協議を実施。

○令和4年8月2日(火) 団体懇談会を実施

議会懇談会実行委員会より、各常任委員会に委ねられた令和4年度団体懇談会において、町内タクシー事業者3社それぞれに、委員会で出向くこととし、「町内におけるタクシー事業の現状と課題について」をテーマにそれぞれに懇談を実施。

○令和4年8月3日(水)総務常任委員会を開催

前日に開催した、団体懇談会に基づくまとめ及び委員間での考えを情報共有。

○令和4年10月20日(木) 総務常任委員会を開催

参考となり得るデマンドタクシー運行事業を展開している近隣自治体への行政視察を実施するにあたり、事前学習を兼ねた委員会の開催。なお、視察先は、他の自治体でも今後参考となるような「AI」をデマンドタクシーに活用し実証試験を実施した「岩沼市」及び「はなみちゃん GO」に類似したデマンドタクシー運行をしている「角田市」とした。

○令和4年10月26日(水) 総務常任委員会で県内行政視察を実施。

岩沼市において「AI バス(実証運行)の内容・岩沼市民バスの概要及び利用状況」について、角田市では「みやぎ中核病院行きタクシー料金の半額助成」について、両市に出向き、行政視察及び情報交換を実施。

○令和4年10月27日(木) 総務常任委員会を開催

所管事務調査終了後、前日に開催した行政視察についてのまとめと、委員それぞれの考えや想いを情報共有。

○令和5年1月12日(木) 総務常任委員会を開催

今回の重点調査事項である、「地域公共交通事業」のまとめ案を作成・検討。

○令和5年1月27日(金) 総務常任委員会を開催

所管事務調査終了後、「地域公共交通事業」のまとめとした、当該提言案を委員で最終確認。令和3年・4年の総務常任委員会としての提言として、議員全員協議会の場で示すことを確認する。

3. 団体懇談会を開催した結果と委員会の考え

令和4年8月2日に、「はなみちゃん GO」の運行事業者でもあるタクシー事業

者を含めた町内タクシー事業者 3 社に直接出向き、「町内におけるタクシー事業の現状と課題について」をテーマにそれぞれに懇談を実施した。

○事業者から出された意見の主なものは次の通り【8 月 2 日開催 抜粋】。

- ・タクシー業界全体でいえるが、ドライバーは年配者が多い。若者はほとんどいない状況。
- ・ドライバーの高齢化が進んでいる、当社の平均年齢は 64 歳くらい。求人についても、各種方面で募集しているがなかなか人が集まらない。
- ・駅から乗車する人も少なくなっている。駅の利用者自体は、夕方に帰宅する人が増えた印象がある。コロナの影響で、飲食せずにそのまま帰宅していると推察される。
- ・中核病院への利用者については、月、数えるほど。槻木からの乗車の場合は、南東北病院や中山整形外科への利用者が多いような印象がある。
- ・中核病院へのタクシー利用者の数は、統計を取った限り、令和 4 年 4 月 38 回、5 月 40 回、6 月 48 回となっている。ほとんど決まった人が利用している。
- ・町内のダイシンまで「はなみちゃん GO」で移動し、そこから通常のタクシーで中核病院まで向かう利用者もいるにはいる。
- ・町への要望として、喫緊問題は燃料費が高騰している（前年に比し 1.5 倍）、燃料費上昇分を考慮して補助金交付時に上乘せしてもらいたい。
- ・「はなみちゃん GO」の運行事業者の視点から、改善が必要と感じている点については、利用者のほとんどが高齢者なので、たまに、ジャンボタクシーへの乗り降り、ドアの開け閉め、荷物の運搬等手伝ってもらいたかったとの意見が出ている。なお、ドライバーには高齢者への気配り及び見守りに注視するよう教育している。
- ・デマンドタクシーで中核病院等への乗り入れの要望はあるにはあるが、果たして本当に利用する人がいるかは疑問がある。「あればあるにこしたことはない」と考えるのが常ではないか。
- ・デマンドタクシーでの町外病院利用については、大きな病気を患って、病院に行く者同士、本当に乗り合いを利用して行くのか疑問である。金額よりも気持ち的にどうかと思われる。利用者に寄り添った感情を考えると、実現可能になってもあまり利用者はいないのではないか？

○団体懇談会で出された意見に対して、委員会での考えは次の通り【8月3日】

※デマンドタクシー事業について

- ・概ね、事業者からは大きな不満はなく、順調に事業を展開している。
- ・継続的な運営をしていくためには、従業員の確保が重要であり、処遇改善的な意味合い分を補助金に加えることも必要と思われる。
- ・利用者の利用時間帯については午前中に集中し、午後は閑散としている状況にある。午後の利用者も増やせる何らかのサービスについても商工会と一緒に検討すべき。
- ・これまで度々、議会でも議論されてきたデマンドタクシーを利用した際の町外病院への延伸については、団体懇談会の聴取りを参考に、利用者目線で考えた場合、デマンドタクシーを利用した乗り合いでの移動方法は、大きな病気を患った際には、心情的に利用を控える傾向にあると想像する。

※タクシー事業全般について

- ・市内のタクシー事業にあっては、地域の生活交通の維持・確保の面からも重要であることを再認識した。

4. 行政視察を実施した結果と委員会の考え

令和4年10月26日に、今後参考となり得る可能性があり、かつ類似点の多いデマンドタクシー運行事業を展開している近隣自治体の岩沼市及び角田市への行政視察を実施した。

岩沼市及び角田市の視察内容は次の通り。【10月26日】

岩沼市 AIバス(実証運行)の内容と今後の方向性について

○実証実験の内容

目的:公共交通環境の利便性向上と効率化等。

内容:期間は令和4年1月7日から3月17日の日曜日を除く60日間で実施。運行時間は午前8時30分から午後5時30分。運賃は高校生以上200円、小中学生100円、未就学児は無料とした。

岩沼市 市民バスの概要及び利用状況について

○運行の目的及び年齢等

目的:平成 11 年度から路線バスの廃止を受けた代替交通とスクールバスの役割を担いながら移動手段を持たない高齢者等の日常生活の足を確保するために運行。

内容:市民バスの運賃は一般 200 円、70 歳以上・小中学生半額、小学生未満等は無料。利用者数は延べで約 12 万人。

○利用者の年齢層等

- ・スクールバスとしても運行しているため、小学生から高齢者まで幅広い年代で利用しているが、日中は高齢者が多い。
- ・平日は通勤通学者と高齢者の利用で半数ずつであるが、土曜日(日曜)は高齢者の利用が大半となっている。

角田市 みやぎ県南中核病院行きタクシー料金の半額助成制度について

○当該半額助成制度を実施する前に、市が借り上げたタクシーを相乗りで利用してもらう「みやぎ県南中核病院通院等アクセス実証事業」(通称:あいのりタクシー)を令和 3 年 7 月 15 日から令和 4 年 3 月 31 日まで実施。内容は、運行日は月曜から金曜。運行ルートは市内の市民センターから市内の主要施設を經由し、中核病院まで(復路は逆)のルート。運行本数は往路 3 便、復路 2 便の本数。利用者負担は 1 乗車(片道)1,000 円。

○あいのりタクシーの実証結果

- ・利用者のほとんどが運行ルート付近の住民であり、デマンドタクシーからの乗り換えは浸透せず。
- ・中核病院までの移動手段として一定の需要があることは把握したものの、市内全域の施策として定着させることは困難であると判断。
- ・あいのりタクシーの利用実績及び利用者アンケートの結果から、タクシー利用助成事業への転換を検討。

○上記の実証結果により、今回の「みやぎ県南中核病院等タクシー利用助成事業」を構築。

- ・利用者の身体的負担の軽減のため、自宅から中核病院までドア to ドアで移動できるようにする。
- ・利用者の経済的負担軽減のため、タクシー料金の半額(上限 3,000 円)を支援。

・助成金の受領をタクシー事業者に委任することで降車時に支払う助成金相当額を差し引いた残額のみとする(現物給付)。

○タクシー利用助成事業の概要と状況等

・令和4年5月1日事業を開始。

・利用登録制とし、登録者に交付する利用者証をタクシー乗車時に提示することで助成が受けられる。

・利用登録者数は108名(R4.10.7現在)、実際の利用者は39名。なお、利用登録者数と実利用者の差については、通院頻度が少ないこと、自家用車の運転が可能なものの念のため利用登録している方が多くいると考えられる。

・実績は少ないが、利用登録者は市内全域から多くの市民が登録しており、これが本来の需要であると捉えている。

行政視察を実施したうえでの、委員会での考えは次の通り【10月27日】

※町外への乗り入れ運行について

○懸案事項となっている、中核病院までの乗り入れの件については、角田市が実施しているような、通常のタクシーを活用した助成事業が、利用者にとっても、ドア to ドアは便利で、かつ分かりやすいがゆえに利用しやすいと思われる。また、助成の方法にあっても、利用者の手間を考えれば、償還払いとするのではなく、現物給付の方法がよいと思われる。

○助成事業を実施する際、町外への目的地については、当町で出資金や負担金を計上している中核病院に限定するべきではないか。

○利用するまでの手続きは極力簡単にした方がよい(申請箇所は各種公共施設でも可能に)。

○多角的に考えると、介護タクシー補助への課題についても考えられるので、実施の可能性を探る場合、その点についても十分な議論を経ることが必要。

5. 調査してきた結果及び委員会としての考え(提言)

これまでの総務常任委員会の調査・検討を踏まえ、委員会として、町が懸案事項としていた、デマンドタクシー事業の町外への乗り入れについて、次のように提言する。

当初、委員会としては、デマンドタクシー事業である、はなみちゃんGOを活用したうえで、町外への乗り入れ手法を検討したが、各種の法律や手続き上の煩雑性から、実現するまでには時間を要すると思われる。

このことから、目的である、「町外に出向くこと」はそのままに、手段を「はなみちゃんGO」とするのではなく、「通常のタクシー」を利用した行政サービス策を検討した。実際のタクシー利用者に対して、タクシー料金の一部を助成することで通常よりも安価でタクシーを利用でき、一方でタクシー事業者は利用者の増、ひいては事業収益の増にもつながる可能性もあることから、「タクシー乗車料金の助成制度」を提案する。

なお、検討する際には次の点を考慮に入れていただきたい。

- ・助成制度が利用できる行き先については、町が負担金等を支出している、みやぎ県南中核病院に限定すること。
- ・地域公共交通事業の観点でとらえれば、当該助成で大きな問題はないと思われるが、タクシー事業という業種で考えると、「福祉タクシー」や「介護タクシー」の事業者及び利用者家族からの要求が予想される。事前に整理、議論する必要がある。
- ・タクシーを利用し、目的地への移動というサービスを受けることから、受益者負担は必要である。利用者には全額を助成するのではなく、一定の負担を求めることも考慮すること。

令和3年度～4年度柴田町議会総務常任委員会

委員長	平間	幸弘
副委員長	大坂	三男
委員	石森	靖明
委員	白内	恵美子
委員	平間	奈緒美